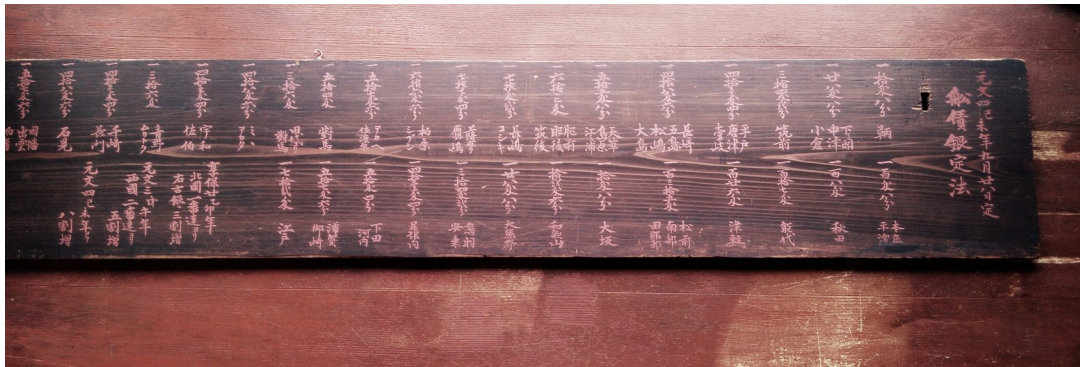


瀬戸内坂越から「北前船がもたらしたもの」第1号(全版)

平成28年3月26日坂越出身 東京都在住 矢竹考司



帆船時代の坂越は活気に満ちあふれていました。それは全国のどこの北前船の寄港地も同じはずです。活気のあった昔の港町に再び光をあてようと北前船寄港地フォーラムを開催したり、関係機関が「日本遺産」へ一括申請を目指してくれています。これを坂越の町並みを創る会からも、応援のメッセージをと「瀬戸内坂越から北前船が伝え残したもの」と題してその思いやご当地自慢を多くの人に綴っていただきその共有した意識を広めていけたらとこの機関紙を創りました。

北前船の活躍は、民謡、祭り、食等、多岐に影響してそれが各地に伝播し変化し伝わっています。祭では松江のホーラエンヤ祭が、民謡では山中節から派生したと思われる下津井節・安来節と江差追分け等がありますが、食では北海道の昆布と高知のカツオが大阪で融合して生まれたダシがそうで、これがベースになり世界遺産にもなった日本食は北前船が伝え残したものと言えます。しかし多くの寄港地にはまだ知られていない北前船が伝えた、ご当地自慢がまだあると思います。それを掘り起こし出来れば太平洋側にも発信が出来たらと考えています。

坂越の北前船は、赤穂市指定文化財の大西家文書一括の船賃銀定法で見ることが出来ます。これは板書で、元文4年（1739年）に北前船の終着港の松前等、全国の船賃表が残っています。大西家は1596年から廻船業を始めていてこの板書からは「賃積船」になりますが、これについて昭和58年発行の赤穂市史N02では坂越の廻船業は単なる運賃積廻船ではなく、問屋も兼ねた買積回船であったと述べられていました。この記載から北前船の要件の「帆船」「松前」「買積船」「瀬戸内」が坂越は

揃っています。また「坂越の船祭り」は北前船の廻船業者が始めた祭りです。

この時代は菱垣廻船や樽廻船の「賃積船」がありましたが、これらは委託された商品を運ぶだけでした。これに対して「買積船」は、各寄港地で自分の采配で商品を売買し、大きな利益を生んでおり、この時代の大西家や奥藤家の資産の推移が赤穂市史に掲載されていました。しかし、坂越から松前迄の往復する航海には、仕入品の暴落、海難事故等のリスクが潜んでいました。このうち、海難事故は渋谷家が1694年酒田沖での海難事故、その前年には豊後国楠屋浦沖、現在の大分県沖での遭難等、海難事故が多発していた事がわかっており、大避神社には海上安全を祈願した絵馬や大西家の石灯籠（1769）そして弁財船（古いもので1722年）の絵馬等が数多く残り、海上安全を祈願していたのがわかります。

19世紀に入り、坂越は北前船から「赤穂の塩」を江戸に運ぶ塩廻船へ方向転換しました。

「この秦河勝を祭神とする大避神社の「坂越の船祭り」や、祭りの御旅所があり河勝の墓があり、国の天然記念物の「生島」を全国に発信する方法として、奥藤家所蔵の「大避神社祭礼絵巻」の絵柄で包装紙した塩味饅頭を考えました。この塩を使った饅頭は200年程前に生まれ、坂越の廻船と共に「赤穂の塩」の名前に支えられた時代があったからです。

兵庫県の支援や協力もあり、北前船の研究等も出来るようになり、坂越のまち並を創る会の門田守弘会長の北前船の講演に加え倉敷のジーンズで作った「北前船寄港地一坂越」の法被は高級感とその文字の響きから、地元の人や、坂越にこられた方にも北前船の話で盛り上がる事が多々あります。

ここ坂越には国の重要文化財の坂越の船祭りがあります。この祭りが始まったのが18世紀始めでした。それは坂越の廻船が全盛期だった時期と一致し、また多くの神社仏閣が再建された時期とも重なります。今ある坂越の江戸風屋敷の家々はこの時期に作られた物がほとんどで、戦争の影響が少なかったため、現在に残されています。

祭りに関しては、他の北前船寄港地に残されている祭りからも調べれば何かわかるかも知れません。いずれにしても、この祭りを今日まで守り続けて来たのが坂越の自慢です。坂越の北前船の足跡は赤穂市指定文化財の船賃銀定法にみる事ができます。この板書は1739年のもので、坂越の廻船が全盛期だった頃の船賃銀表です。ここには江戸や薩摩もありますが、松前、津軽、秋田等沢山の日本海側の地域の船賃銀表がありました。ここから明らかに、坂越では北前船が活躍していたのがわかります。

坂越まち並みを創る会の門田会長から、兵庫県から、坂越の北前船の調査の支援を受けたときいて、調査をどうしていこうか考えました。そこで地元赤穂だけではなく、東京や日本海側の北前船寄港地から調べる必要があると考えました。東京には沢山の資料が集まり、東京大学や慶應大学等の大学の図

書館や国会図書館には、地方の情報が沢山あるはずなのでそこからどう探すかが課題です。また北前船寄港地の日本海側は北から南迄長いので、この地域のどこに行ったらわかるかも調べてる事も課題になります。これから調べて何も出てこなくても、北前船寄港地の人とのつながりができます。この支援が終わる来年の3月には関連地域の方々の投稿も含め小冊子にしそれを兵庫県に提出ができればと思っています。

坂越の人たちには北前船についてはあまり知られていないので時間がかかるかも知れません。これから、北前船寄港地の人にも投稿の協力をお願いしながら、坂越の北前船の足跡について取り組んでいきます。

終わりに、過疎地になりつつある坂越の町が、北前船の活動によって活性化されて良かったと思えるように取り組んでいきたいと思っています。

あなたの投稿をお待ちしています。
下記のメールアドレスにお送り下さい

yhopini@yahoo.co.jp

>